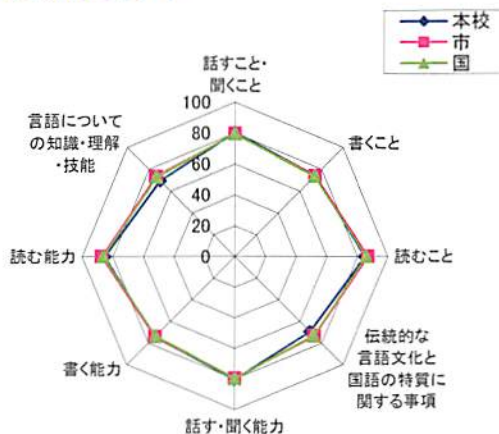


宇都宮市立横川中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

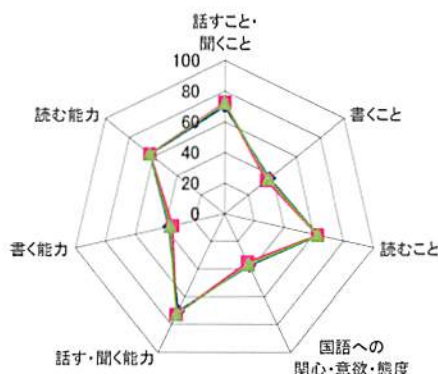
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	80.2	79.5	79.7
	書くこと	74.1	74.1	73.6
	読むこと	85.2	87.2	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.6	73.4	72.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	80.2	79.5	79.7
	書く能力	74.1	74.1	73.6
	読む能力	85.2	87.2	86.1
	言語についての知識・理解・技能	69.6	73.4	72.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	70.3	72.8	72.2
	書くこと	37.3	35.0	36.7
	読むこと	62.6	62.6	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	37.3	35.0	36.7
	話す・聞く能力	70.3	72.8	72.2
	書く能力	37.3	35.0	36.7
	読む能力	62.6	62.6	62.6
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○授業の目標(めあて、ねらい)が示されていたか、という質問に対し、当てはまるものの解答が県・全国ともに大きく上回った。前々年度より、毎時間「本時の目標」と書かれたマグネットを活用し、板書事項の最初に提示しているが、それが習慣づいたことは大変良好な状況であると思われる。
 ●授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていないかったとの解答が多く、県・全国の割合に対して低かった。目標を明示しているにもかかわらず、それを振り返る活動が圧倒的に足りなかったという反省を踏まえ、今後は単元を通して、時間ごとに自己評価や反省、感想などを記入するワークシートを作成し、活用していきたいと考える。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

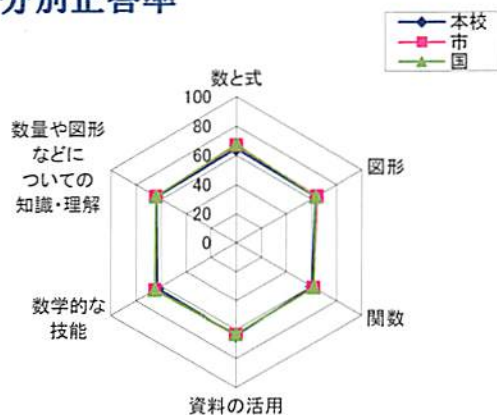
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○資料の提示のタイミング、聞き手を意識した分かりやすい語句の選択は、全国平均、県平均値とともに上回っている。 ●内容に合った図などの資料を適切に選択する力が全国平均値より低い。	聞き手に分かりやすいように効果的な資料を作成し、その資料を活用したスピーチを行う場を多く設けていく。また、「聞くこと」の観点も常に意識させるため、発表を注意深く聞いてメモをとるなどといった活動も充実させる。そのためのワークシート等を工夫する。
書くこと	○「文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く」という趣旨の問題では、全国平均・県平均ともに大きく差が表れた。 ●伝えたい事実を明確に書くことは、全国・県から下回った。	文章には表れていないものを、自分なりに類推していく力をつける。例えば、登場人物の表情の描写や、文中の表現技法などから、文章中にはない登場人物の心情を読み取り、自分の言葉でまとめるといった作業を取り入れる。
読むこと	○「登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する」では上回った。 ●目的に応じて要旨を捉える問題では、県全体が全国より上回っている中で、3.9ポイント低かった。	具体的な取り組みとして、まずは一文ごとのかたまりを短くまとめていき、それを段落、文章全体と段階を踏んで要約ができるように授業の際の言葉がけや作業を工夫する。また、グループ活動を取り入れながら、互いに発表し合うことで批評し合い、より分かりやすくまとめていると創意的工夫を促す。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○文章に用いられている表現の工夫を選択する問題では、県平均・全国平均ともに上回った。 ●漢字や文法事項といった語句の問題への対策は今後の課題である。特に文法問題における、基礎的な単語の分類の問題は、県平均を下回った。	特に文法事項を苦手としている生徒が多いため、基本的な問題から細やかに指導を行う。既習の文法事項の復習に向けた課題に取り組むなどして、知識の定着をはかる。また、チームティーチングを活用して、つまづきのある生徒にも丁寧に支援ができるよう、体制を整えていく。

宇都宮市立横川中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

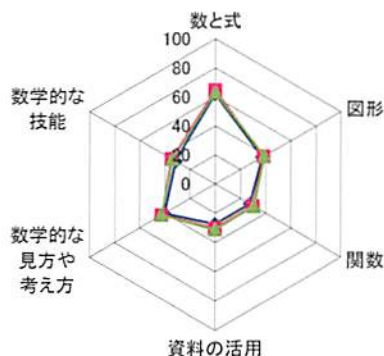
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	64.5	67.0	67.7
	図形	63.4	64.1	63.4
	関数	60.3	61.4	61.7
	資料の活用	63.9	63.3	63.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	62.7	64.8	65.0
	数量や図形などについての知識・理解	63.5	64.0	63.9



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	62.2	64.8	63.2
	図形	37.3	38.3	39.0
	関数	27.5	29.9	30.7
	資料の活用	27.5	30.4	31.2
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	40.6	42.6	42.8
	数学的な技能	31.6	34.9	34.2
	数量や図形などについての知識・理解			



★数学に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○数学の勉強は大切だと思う、数学ができるようになりたいと思っている生徒が8割を超えている。数学の問題の解き方が分からないときは、色々と試行錯誤して、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている生徒が7割を超えていた。
●数学の勉強があまり好きではないという生徒が半分を超えていた。数学の授業で学習した内容を普段の生活で活用しようとする生徒が少ない。

★指導の工夫と改善

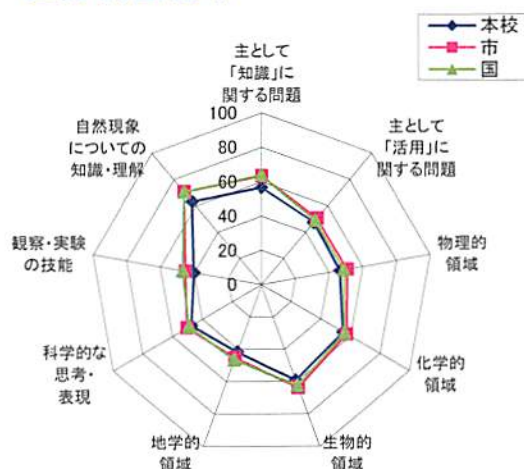
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○少数を含む一元一次方程式を解くことと、連立方程式の立式することは、県・全国平均を上回っていた。 ●数量関係を文字式で表すことや文字式を用いて説明することが、県・全校平均を下回っていた。	基礎計算力向上のため、毎時間始めに学び直しを行ったり、毎時間終わりに確認テストを行ったりすることを継続して、基礎・基本の定着に取り組む。 履修事項の中で文字式で説明する場面などが出てきた時には、丁寧にに取り上げ指導していきたい。
図形	○平面図形や空間図形の位置関係などをよく読み取ることができ、県・全国平均を上回っていた。 ●平面図形の中で、記号を使った表現を読み取ることや証明問題を解く力がまだ不十分である。	図形を視覚的に判断することができる。授業では、立体模型を用いることで、図形のイメージをしやすくする工夫をしておきたい。 証明については、その手順の中で記号の読み取りや図形認識をしっかり押さえることで、丁寧に指導していきたい。
関数	○1次関数の関係を表やグラフから読み取ること問題においては、県・全国平均を上回っていた。 ●二元一次方程式の理解が不十分である。	関数の分野において、表やグラフや式を関連させて考えさせることで、さらに深い理解につなげていきたい。 様々な表現の中で、グラフから事象を読み取ることがいを書くことが苦手なことから、そのよさを感得させながら活用する場を取り入れていきたい。
資料の活用	○場合の数や確率を求める問題は、県・全国を上回っていた。 ●資料の傾向の読み取りが身についていない。	自分の言葉で説明する問題における、無回答が多い。自分の考えに自信が持てないことが考えられる。授業中に、問題の答えを答えさせるだけでなく、考え方や理由も答えさせていく必要がある。そうすることで、自分の考えをまとめさせたり、発表させることで生徒に自信をつけさせていきたい。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	56.7	63.3	63.8
	主として「活用」に関する問題	47.4	50.3	48.8
分野等	物理的領域	46.6	50.9	48.9
	化学的領域	55.1	57.5	56.2
	生物的領域	58.9	63.4	62.2
	地学的領域	41.7	45.2	46.4
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	47.4	50.3	48.8
	観察・実験の技能	40.2	45.1	46.8
	自然現象についての知識・理解	63.3	70.6	70.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことのある生徒の割合が多い。また、理科の実験や観察を行うことが好きな生徒も多い。
 ●将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたい、将来社会に出たときに役立つと思っている生徒の割合は多くない。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物理的領域	○音の波形を比較し、音の高さが高くなった根拠を答える実験で、県の平均を上回っており、視覚でイメージしやすいものは正答率が高い傾向がある。 ●県の平均と比較して3.2ポイント、市の平均と比較して4.3ポイント下回っている。	モノコードやオシロスコープなどを使って、実感を伴った理解ができるようにすることで物理的領域に興味、関心を持てるようにする。また日常生活で起こりうる現象とあわせて理解できるようにする。また、公式を使った計算問題を繰り返し行うことで、苦手意識をなくしたい。
化学的領域	○実験の結果を分析したり、グラフを分析して正しく読み取る問題は県の平均を上回っており、よく理解できている。 ●この領域は、県の平均と比較して1.6ポイント、市の平均と比較して2.4ポイント下回っている。質量パーセント濃度を用いて計算する問題は県の平均を5.0ポイント下回り、無解答率も高い。	多くの生徒が公式を利用して計算することに苦手意識を持っているので、段階に応じた問題を多く用意し、計算に慣れさせる。例題を丁寧に説明し、解き方を定着させたい。実験の考察を書けるようにまとめかたを工夫することにより、結果の分析能力をさらに身に付けさせたい。
生物的領域	●考察を検討して改善し適切な考察をするなど記述に対する無回答率が多い。 ●この領域は県の平均と比較して2.9ポイント、市の平均と比較して4.5ポイント下回っている。	振り返り活動を中心として、授業内容の確認を丁寧にを行い、自分の言葉でまとめられるように工夫する。実験、観察の際にスケッチや考察を書かせる機会を多く取り入れることにより、内容を理解させたい。
地学的領域	○気圧の変化による袋の膨張をモデルであらわす問題や、気温差による降水量の違いの問題は県の平均を上回っており、よく理解している。視覚でイメージしやすいものは正答率が高い傾向にある。 ●この領域は県の平均と比較して3.5ポイント、市の平均と比較して3.5ポイント下回っている。	小テストなどで記述式の問題を多くすることで、説明できる力を身につける。また、天気記号や風力など繰り返し復習して理解させたい。温度、湿度、露点のグラフの読み取り方などの力を定着させたい。